

日帰りエクスカージョンの「机上ツアー」化

山下 琢 巳

1 はじめに

本報告は、2020年度前期フレッシュマンセミナーのオンライン授業において、本来実施予定となっていた1年生用の「日帰りエクスカージョン」を「机上ツアー」に置き換えた場合の授業教材を紹介することを主たる目的とする。

今年度のフレッシュマンセミナーでは、当初の目論見として「1年生をツアー形式で学外に連れ出し、現地の特徴を見学しつつ、社会・経済を分析するための初歩的な課題を設定し、それを発表形式で報告する」ことを予定していた。しかし、通常授業をはじめ、前期学内行事のほとんどが新型コロナウイルス感染拡大により実施中止になっていることは周知のとおりである。

ところで、外出自粛が長く続き、観光地や観光業の一部ではネット上で観光名所の映像をリアルタイムで流す「バーチャルトラベル」の試みが行われている。地理学の分野でも、コロナ禍以前からネット上で利用できる地図・地形データの整備が進んでおり¹⁾、それを趣味、研究、教育と様々な段階において利用することが可能となっている。これらの技術を応用すれば、おそらく今回中止となった「日帰りエクスカージョン」のネット上での再現が可能となろう。

しかしこれらはネット環境が整った、ある程度の「パソコンスキル」を有する個人が利用することを前提としており、今般のオンライン授

業のように「教員、学生のネット環境、パソコンへの習熟度が不明」という「手さぐりの段階」から出発した場合には、全員が一斉に、予定した「オンライン上の旅行」に参加することは時間と労力の制約上、不可能であると言わざるを得ない。

そこで、筆者の担当するフレッシュマンセミナーでは、1) 通信容量の大きくなる動画を使わない、2) 「ビデオ会議」式のソフトやアプリを使わないことを条件とし、今年度の日帰りエクスカージョンとして設定していた3つの目的地、

- ・首都圏外郭放水路見学と川島町（新旧の治水対策）
- ・川越と飯能メッツァ（観光地と観光行動）
- ・羽田空港とヤマト運輸羽田クロノゲート（交通拠点と物流）

を机上で解説し、設定した課題を学生に提出してもらおうという形で教材化することとした。

2 ツアーの内容

Webclass で使用するフレッシュマンセミナーの授業用資料に、それぞれの目的地の特徴を列举し、本来の見学では「どんなことに注目できたのか」を解説した。図1は「首都圏外郭放水路見学と川島町（新旧の治水対策ツアー）」の机上ツアー資料の一部である。この中では国土地理院の地形図を添付し、建物が不自然にカー

ブした土地の上に集中して、集落を形成していることを解説している。このような解説冊子を用意し、最後に課題として、

- ・首都圏外郭放水路の役割
- ・川島町遠山記念館
- ・川島町の土地利用
- ・圏央道のインターと物流拠点

・金箔醤油の歴史

を提示し、本来なら「班」を作って、このどれかについて調べることになっていた旨を説明した。学生は、これら5つから1つを選び次週までに調べて提出することを授業出席の課題とした。

昔の水害対策の基本

遠山記念館や、周辺の家があるところの地図です。

赤っぽく見えているところが、家が密集している所です。

不思議な形に曲がっていませんか？



図1 机上ツアー用授業資料の一部

次に、「川越と飯能メッツァ（観光地と観光行動）ツアー」では

- ・「実際に住人がいて経済活動が行われている川越」と、「入場料を払うテーマパークのメッツァ」の違いを調べる
- ・それぞれお土産として購入できるもの、現地での飲食店とその主要なメニューの違いから、観光で訪れる客層のターゲットを類推することを課題とした。

3 つめの「羽田空港とヤマト運輸羽田クロノゲート（交通拠点と物流）ツアー」では、学生にスマートフォンに入っている地図ソフトを

- 1) 羽田空港がどんな場所にあるのかを確認する、
 - 2) そして羽田空港は、外航・内航それぞれの貨物船が出入りする「東京港」にも近接していることを発見するよう誘導し、
 - 3) ヤマト運輸以外の、日本を代表する物流会社の主要拠点がどこにあるか、を踏まえて、
- ・そういった場所に物流拠点を作る利点を考える
- ことを課題とした。

また、スマートフォンからも容易に表示できる飛行機の運行状況確認ソフト「フライトリーダー24」を紹介した。これを操作し、学生がア

クセスした時に羽田空港を離発着している飛行機の便名や行き先を報告してもらうことも考えたが、授業を実施した6月10日は、外出自粛の影響で飛行機が全く動いていない時間帯もあったため、報告課題としてはうまくいかなかった。

3 提出された課題とその特徴

オンライン授業では、学生が「スマートフォンのみ」で受講していることを考慮したので、全員に「長い分量のレポート」や、「パワーポイント、エクセルなどデータを含めた報告」は作成が困難であると判断し、「要点を数行にまとめてwebclassに提出」という形を採用した。こういった課題について、全学生に一律の分量にするのが適切か、パソコンを利用可能な学生にはそれ相応の分量を課し、利用環境にない学生には適宜考慮するといった方法を採用するのが適当なのか、さらに検討する余地があろう。しかし、「どの学生も他の授業でも課題が出ていて、その対応に追われている」という噂を耳にしたことがあり、学生に事実を確認していないが、「分量の多い課題を出すのがかわいそう」という感情が働いたのも事実である。

ところで容易に取り組める課題にしたからか、提出率は3つのツアー共に100%となった。ただし、調べた内容は個人差があり、「行ってみたくなくなった」といった感想を書くのみの学生も何人か存在した。今回の教材は、フレッシュマンセミナーの5～7回目用の授業として実施したが、10回目以降にはレポートの書き方と、下調べ・準備の仕方を取り上げる予定となっていた。この机上日帰りツアーの課題提出を踏まえて、後にレポートの書き方を解説することができたため、学生にとっても理解が進んだのではないかと思う。

ところで、資料や別ファイルの閲覧、課題に対する疑問があった場合にはwebclassの掲示板機能や教員の電子メールに質問するように指示していたが、該当期間には質問はなかった。

なお、この授業の最後に、実際にツアーが行われていたらどれに参加したかったか、学生を対象にアンケートを取った。結果は以下のようになった。

表1 学生のツアー参加希望

Q. 日帰りツアーが実施されていたら、どの目的地に行きたかったですか	
治水施設見学ツアー	3人
観光地見学ツアー	4人
交通・物流拠点見学ツアー	11人

半分以上の学生が羽田空港のツアーを希望する結果となった。希望する理由までは質問項目に入れなかったため、これ以上の分析はできないが、埼玉県内よりも東京都内に行けるということと、おそらく空港に行ったことがない学生が多いことが予測される結果となった。来年度同じツアーを企画する際には、学生が興味を持つ指標として利用できる可能性があるため、参考資料としたい。

4 おわりに

本報告は、新入生向けに開催予定であった日帰りエクスカージョンの中止に伴い、机上ツアーとして教材化した具体例を紹介したものである。今後の課題として以下のことを挙げ、結びとしたい。

まず、実際のツアー実施に関して、筆者は治水施設見学ツアーを企画し、当日もガイドを務める予定となっていた。そのためこのツアーに関しては、いくつかの見学地点の下見も行い、

3月中旬の段階で見学用の資料も大部分完成していた。授業では、それを加筆することなくそのまま教材として転用している。3つの机上ツアーの中では説明用の資料が最も詳細に作られており、5つの課題を設定できたのも実際のツアーで班行動になることを想定して用意していたためである。他方で、残り2つのツアーは筆者の担当ではなかったため、事前に詳細に用意した資料はなかった。机上ツアーとして設定した課題も、いわば「即興」で考えたものであり、用意した課題の数も少なくなっている。そのため、今回の3つの机上ツアーでは解説の質にも差があることは否めない。しかしながら、筆者はフレッシュマンセミナー以外にも今年度前期は8つ授業科目を担当しており、そのすべてでオンライン授業用に教材作成に追われる中で対応していた。フレッシュマンセミナーだけに十分な時間を取って授業準備ができないのが実状であった。特に、この教材を使った5月、6月の段階では、授業準備に全く余裕がなく、むしろ「作成済で使われていない、“ボツ”になっている資料を、何とか授業用に再構成して、楽ができないか・・・」と、悲痛な思いから教材化したのが今回の資料である。これでよかったのかどうかの判断も含めて、今後の課題としたい。

注

1) 例えば、国土地理院「地理院地図 Vector (試験公開)」(<https://maps.gsi.go.jp/vector/>) (2020年9月10日) など。